



岩泉ヨーグルトの販売再開を目指す山下欽也社長(岩手県岩泉町で)＝関口寛人撮影

### 岩手 台風被災

岩泉ヨーグルトは地元産牛乳を使い、とろみとコクが特徴。地元農協を早期退職した山下さんは、町の第3セクターとして設立され



復活後も使用される予定の岩泉ヨーグルトのパッケージ(1キ・4用)

わった。09年4月から社長を務めている。昨年8月30日、町内を流れる小本川が氾濫し、川沿いの3工場は床上浸水の被害を受け、生産設備が使えなくなった。多くのポランテアが駆けつけ、流木やがれきの撤去を手伝ってくれた。山下さんは「1年で再開しよう」と社員を励ました。社員50人のうち9人は一時、茨城県の乳製品会社に受け入れてもらったが、解雇はゼロ。全国の取引先約

リピン国籍の岐阜県瑞穂市、工員ランパン・ジェリコ・モリ容疑者(35)が茨城県警の調べに対し、「仲間と遊んでいる時に女子学生を見かけて犯行に及んだ」という趣旨の供述をしていることが5日、捜査関係者への取材でわかった。捜査関係者によると、携

で働いていた。また、県警は同パン容疑者と共謀れる同国籍の33歳男2人について、の容疑で国際手とを明らかにしは、事件当時は07年に出国。捜査によると、2人の一部が、女子学生付着していた遭難出されたものという。2人と面識がなかった可能性がある。

# おたふくで両耳難聴14人

## 15、16年学会調査 予防接種呼びかけ

おたふくかせ(流行性耳下腺炎)の後遺症で両耳が重い難聴となった人が、過去2年で少なくとも14人いたことが5日、日本耳鼻咽喉科学会が発表した初の全国調査結果からわかった。片耳の難聴も含め計314人になる。同学会は「ワクチン接種で防げた可能性が高い」とし、予防接種を受けるよう呼びかけた。

同学会が全国約5600の医療機関に調査票を配布し、2015、16年に、おたふくかせのウイルスによる難聴と診断された患者314人について回答を得た。子どもが多かったが、30歳代以降も70人近くいた。

両耳の難聴は14人で、大人も一部含まれる。片耳の難聴は300人だった。今回の調査では、おたふくかせにかかった人全体に占める難聴となった患者の割合は不明という。

ただ、専門家によると、これまで、難聴は数百〜1000人に1人と推定され、多くが片耳のみと考えられてきた。両耳ほど大きな生活上の支障はないため、医師の間でも深刻に捉えない人もいる。

同学会の福祉医療・乳幼児委員会委員長を務める守本倫子・国立成育医療研究センター耳鼻咽喉科医長は、「難聴になるとほとんどは改善しない。予防ワクチンの接種を勧めることも国に対し早期に定期接種化するよう求めたい」と述べた。

おたふくかせのワクチンは1989年、麻疹や風疹との混合ワクチンとして定期接種とされた。しかし、吐き気やめまい、頭痛を起す無菌性髄膜炎の副作用が問題になり、93年に中止された。現在は任意接種のため、接種率は3〜4割と低く、幼稚園や学校で流行

する原因となっている。世界的にみると、先進国ではワクチン接種が浸透しておたふくかせの流行はほとんどない。流行するのは、日本以外ではアフリカやインドなどに限られている。

### 副作用と後遺症 検証急げ



両耳が難聴になった人が2年で14人いたことについて、専門家は「感覚的には多い」と見る。ワクチン接種率の低さがおたふくかせ流行につながり、重い後遺症の発生を広げているのだとすら深刻な事態だ。

日本でワクチンの定期接種が進まないのは、有効性だけでなく安全性も高いワクチンが確保できていないためだ。現在、使われている

(医療部)

法人窓口 03-6362-5000